



杉戸町長 窪田 裕之氏

町長のメッセージ

杉戸町の魅力は、水と緑に囲まれた田園風景が広がる豊かな自然とまちを元気にする町民の皆様であります。

この資源と魅力を未来につなげていくために、私は、町民の皆様が安心して豊かに暮らし続けられるまちをつくりたいと思っています。

そのため、町民の皆様から笑顔が生まれるまち、町内外の方々から選ばれるまちとするため、第6次杉戸町総合振興計画に掲げた未来像の実現に向けた取組みと、私の公約に掲げた施策等を着実に進めながら、活気あるまちづくりを全力で推進してまいります。

はじめに

杉戸町は埼玉県の東部に位置し、北は幸手市、西は久喜市と宮代町、南は春日部市、東は江戸川を以て千葉県野田市に接している。この江戸川と町の西端を流れる古利根川にはさまれ、町には多数の水路が流れており、水と緑の豊かな地である。

都心から40km圏内に位置し、町内の東武日光線杉戸高野台駅に加えて、東武動物公園駅が利用できる。東武日光線から、地下鉄日比谷線・半蔵門線へ直通運転が行われており、都心へのアクセスは良好で都内へ通勤する人も少なくない。道路では、国道4号、4号バイパスが南北に走るほか、東北自動車道久喜IC、圏央道幸手ICに近く交通の利便性は高い。

古くから栄えた地であり、鎌倉時代には鎌倉と奥州を結ぶ鎌倉街道が通り、江戸時代には五街道の一つ日光街道5番目の宿「杉戸宿」が置かれ、本陣や脇本陣、旅籠などが立ち並び宿場町として賑わった。

1889年、北葛飾郡杉戸宿、清地村、倉松村が合併し杉戸町となった。以降、高野村、田宮村、堤郷村、泉村との合併などを経て、現在の姿となった。

多世代が集う複合施設「ココティすぎと」

町内の公共施設は老朽化、利用率の低下、維持費の増加などから、地域の魅力低下にもつながっているという課題があった。そこで町では、「広場を中心とした多世代が憩い利活用できる、賑わいのある公共空間」の創出を目指し、再編、整備を行っている。

昨年4月にオープンした「ココティすぎと」は、杉戸町コミュニティセンター、杉戸子育て支援センター、杉戸町商工会が入る複合施設で、地域のまちづくりや子育て支援の拠点となっている。子育て支援センター遊戯室の床や遊具に、埼玉県産の木材を使用するなど、館内全体が温かみのある空間となっており、図書室やシェアキッチンなども設置されている。同じ敷地には広場、インクルーシブ（あらゆる人が利用できる）遊具をそなえた中央児童公園があり、多世代が集える新たなコミュニティスペースとして、年代を問わず多くの人々で賑わっている。



多くの人で賑わうココティすぎと

古利根川の利活用

ゆったりと流れる古利根川は、古くより時間を刻み、町の原風景の1つとなっている。四季を通じていろいろな姿を見せてくれるこの水辺は、町の生活に溶け込んできた。近年、「遊歩道」や「船着場」などの整備

杉戸町概要

人口(2025年8月1日現在)	43,309人
世帯数(同上)	20,396世帯
平均年齢(2025年1月1日現在)	51.2歳
面積	30.03km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	91所
製造品出荷額等(同上)	535.9億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	288店
商品販売額(同上)	941.6億円
公共下水道普及率	71.0%
舗装率	74.0%

資料:「令和6年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 東武日光線 杉戸高野台駅
- 圏央道 幸手ICから町役場まで約6km
- 東北自動車道 久喜ICから町役場まで約11km

により、散歩や水上のアクティビティといった楽しみの可能性が広がり、地域振興のきっかけとなっている。また、埼玉県の川の再生事業「水辺deベンチャーチャレンジ」により護岸の整備を進め、本年2月に「張り出しテラス」が完成した。キッチンカー等の出店が可能となり、水辺空間の活用により更なる賑わいの創出が期待される。

この古利根川で行われる夏の恒例行事が、「古利根川流灯まつり」(表紙写真)。古利根川の穏やかな川面に、一昼一晩ほどもある大型の灯ろう約250基をはじめ、大小様々な灯ろうが並び幻想的な雰囲気醸し出す。「流灯まつり」は1935年頃に始まったが、戦争により中断され、長い間そのままとなっていた。その後、1990年に地元商店会の有志が中心となり復活し、現在も多くのボランティアの協力のもと、毎年開催されている。「流灯まつり」には、地域を愛する人々の思いが込められている。

東武動物公園駅東口通り線周辺まちづくり

東武動物公園駅東口通り線は、道路幅が狭く未整備のままとなっていたが、2018年に拡幅整備事業がスタートした。昨年8月からは、新たに国道4号までの区間も拡幅事業を進めている。

拡幅整備事業に併せ、東武動物公園駅東口通り線周辺まちづくり構想を策定し、エリアの価値向上のために、官民連携を基本とした取組みを行っている。

同エリアでは、「今日、すぎとをのっとりたい人」募

集事業を行っている。これは、「自分のやってみたいこと」を提案し、採択された場合、行政及び民間からの支援を受けながら実現する公募型のまちづくりコンペ。「移動式ゲームセンター」、「週末ラジオ体操」、「下総・武蔵ビール&ハイボールフェス」などのイベントを地域の住民と町が協働して実現した。

また、地域課題の解決に資する企画を提案、実現する実践型まちづくりスクール「ストリートデザインスクール@すぎと」を開講している。その中で、地域のバックグラウンドを学び、解釈しながら、公共空間を活用する社会実験「杉戸まちなかキャンパス」を開催した。

町では、まちづくり構想のコンセプトである「誰もが主役になれるまちづくり」に沿った多彩なアクションを実施し、この町に関わる人が、人、場所、様々な資源を生かして自ら動き出せる環境をつくることに力を入れている。

(吉嶺暢嗣)



東武動物公園駅東口通り線周辺エリアでの官民協働イベントの様子